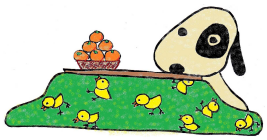
NPO 法人 おおさかこども多文化センター　Newsletter

OKoTaC 通信　NO.9

オコタック

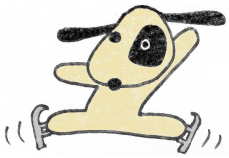
2013 年 2 月 10 日発行

写真：『キリン福祉財団助成金事業　日本語を母語としない親子の社会見学』にて
（大阪市立阿倍野防災センター）



NPO活動報告 ・・・・・・・・・・・・・ P2
『日本語を母語としない親子の社会見学』最終回
『大阪府教育委員会委託事業「ピアにほんご」教育サポーター交流会』
多文化な子ども@大阪のニュース ・・・・・・・・・・・・・ P3
『第１１回 Wai Wai!トーク Part2』
『「こどもひろば」クリスマス会』
国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境（3） ・・・・・・・・・・・・・ P4
『親の就労と老後』
地域の子ども支援教室から⑨ ・・・・・・・・・・・・・ P5
『サンプレイス（とよなか国際交流協会）』
Air Mail　メキシコ便り⑨『チアパス』 ・・・・・・・・・・・・・ P6
ころちゃんお役立ち情報（1） ・・・・・・・・・・・・・ P7
『多言語学校プロジェクト』
イベント情報 ・・・・・・・・・・・・・ P8

おおさかこども多文化センター　活動報告



キリン福祉財団助成金事業『日本語を母語としない親子の社会見学』
最終回が無事終了！　――『安心』につながる支援ができたでしょうか？――

キリン福祉財団の助成金をいただき企画運営してきた「日本語を母語としない親子のための社会見学（全5回）」の最終回が、1月20日（日）に無事終了しました。最終回は「大阪市立阿倍野防災センター」の見学。阪神淡路大震災が発生した防災月間の 1 月に合わせての実施となりました。

参加者は24人。折しも来阪されていたキリン福祉財団の担当者の方も、見学に参加されました。参加者は家族ぐるみで、ビデオを通訳つきで見て『防災』についての知識を得たり、実際の地震の揺れを体感したり、また、地震の時にガスや電気をどうするのか、消防車や救急車を日本語で呼ぶ時にどうするのかなどを、遊び感覚で楽しく学びました。以下は、親子 3 人で参加されたお母様の感想です。

レジ袋、ネクタイ、傘…身近なもので応急手当を体験

「娘（小6）は、日本に来てから震災のニュースの映像を見るたびに、地震が来たらどうしよう、どうしたらいいかわからないと、いつも怖がっていたのですが、今日こんなふうに、揺れを実際に感じてみたり、火を消火器で消すシミュレーションをしたりするのは、とても有意義だったと思います。息子（小4）は、怪我をした時の応急処置を学校でもしたようですが、家族で一緒にやってみるのは、いい経験になりました。私も子どもたちも、知らないから不安だったことが、知ることによって解消され、安心につながったと思います」

いっしょに練習したよ！

プログラムの最後には、日本語講師のもと、日本語をおさらいし、防災センターのご好意で提供された非常食のα（アルファ）米をみんなで食べて、お腹いっぱいでお開きとなりました。　(O.Y)

大阪府教育委員会委託事業「ピアにほんご」教育サポーター交流会　開催

2012年12月21日の午後、大阪府庁別館にて「教育サポーター交流会」が開催され、16名のサポーターが参加しました。

第一部は、大阪府教育委員会の担当者の方より、「大阪府立高校の入試制度」について、校区・枠組み（前期や後期、全日制や定時制・通信制、専門学科・総合学科など）の概略的な説明があり、次いで平成25年度の入試に於ける従来との変更点や、渡日・帰国生などの応募資格・入試手続きなどについて、判りやすく解説をしていただきました。日頃のサポート活動では、学校での授業主体の現実的な支援に追われて、全体的な制度について学ぶ機会や時間的な余裕もなかった為、今回の総括的な解説は大変参考になりました。

第二部では、サポーター2名の方から活動経験で感じられた事や苦労・工夫された点、アドバイスなどの発表の後に、少人数のグループに別れて多分野にわたる討論を行いました。メンバー各自の貴重な経験や、ご苦労・やりがいなど実に様々なご意見などをお伺いする事が出来て、とても勉強になりました。

今回の交流会を通じて、他のサポーターさん達との意見交換が出来ると共に、学校側との良好な協力関係をつくりながら、「ピアにほんご」との連携・支援体制を推し進めていくことの重要性について改めて認識させられました。今後とも、この様な交流・研修会が続けられる事を期待しています。　（教育サポーター：野口俶宏）

『第 11 回 Wai Wai!トーク Part2』 主催：大阪府立学校在日外国人教育研究会(府立外教)

（大阪成蹊大学　マネジメント学部准教授　鍛治致）

毎年恒例の『Wai Wai!トーク』が今年も 1 月 19 日、府立住吉高校で開催され、外国にルーツをもつ府立高校の生徒たちが「母国語」で自分の思いを伝えてくれました。

今回は参加資格が 1 年生のみで、使用言語の内訳は中国語 11 名、フィリピノ語 3 名、韓国語 1 名、英語 1 名、ロシア語 1 名の計 17 名、生徒たちの出身高校は 8 校に上りました。今回も「各審査員が自分がもっとも惹かれた生徒を表彰する」という審査形式でしたが、私が表彰したのは笑顔で楽しそうに歌うようにスピーチしてくれたフィリピンの女の子でした。フィリピノ語は分からなくても、見ている人を幸せにするような魅力にあふれたスピーチでした。その一方で、自分や家族の身に生じた具体的な出来事を踏まえ、人口抑制政策や島嶼をめぐる問題について語ってくれた生徒もいました。この他、癌で他界した母に対する感謝の気持ちを母親の「母語」で述べてくれた女子生徒もいましたし、母に対する感謝の気持ちから「野人」を卒業して「文明」に向かって歩き出すことを誓ってくれた男子生徒もいました。

スピーチの後は大学等に進学した先輩方を招いて、どうすれば充実した学生生活が送れるかについて話してもらいましたが、生徒たちは皆、3 年後の自分の姿をイメージしながら熱心に聞き入っていました。

この行事もすでに 11 年目を迎えました。次回は 2013 年の春または夏に高校 2、3 年生による『第 12 回 Wai Wai!トーク Part1』が予定されているとのことです。次はどのような生徒達のどんなスピーチと出会えるのか、楽しみです。

「こどもひろば」クリスマス会　～頑張った当事者ボランティア～

外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・学習支援と居場所づくりのために、大阪国際交流センターで活動している「こどもひろば」で12月23日、ボランティアも含め28名が参加してクリスマス会が開かれました。

こどもひろばでは、ここで勉強し、今では大学生、高校生となっている当事者ボランティアと呼ばれる若者たちが毎週活動しています。彼らはこどもひろばの後輩たちに勉強を教えることはもちろん、まだ日本語がしっかりできない子どもと、大人のボランティアとの間の通訳も担っています。この日はそんな彼らの中の3人の女子高校生がクリスマス会の企画、司会、進行をすべて担当しました。

たくさんの食べ物や、お菓子、ジュースが並べられた机の周りに集まった久しぶりの顔や、この日初めて参加した子どもも一緒に、わいわいがやがやとおしゃべりが弾む中、彼女たちが用意したゲームは3種類。最初のゲームはクリスマスにちなんだ3択クイズ、やさしいようでなかなか難しく、みんな一生懸命に考えながら答えていました。次はビンゴゲーム。ビンゴの札が手違いで用意できずに、急遽、マス目だけを書いた紙に自分で好きな数字を書き入れ開始です。ビンゴになるたび歓声があがり、ささやかな品物にも大喜びの子ども達でした。そして最後はホワイトボードに子どもが描いた絵を「何描いた？」と当てるのですが、猫かネズミか虎か犬かよくわからないという絵になってしまい、子ども達はその動物だとわかる特徴を描くことの難しさを知ったのではないでしょうか。また、ゲームとゲームの間に次の準備に手間取り、子ども達が姿を消してしまうという一幕もあり、進行を務めた女子高校生は「たくさんの子ども達の集中力をとぎれさせない運営は難しかった」と言っていましたが、彼女たちの頑張りで和気あいあいの楽しいクリスマス会になったのではないかと思います。　（H. K）

国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境（3）

「親の就労と老後」

樋口 直人（徳島大学 総合科学部準教授）

外国籍の子どもがおかれた家庭環境を考えるうえで、親の就労状況はもっとも重要な要素の 1 つである。図 1 は未婚／既婚女性の労働力比率を示したもので、これをみると女性の就労パターンは 3 つにわかれ、それぞれ問題が異なることがわかる。

すなわち、日本と韓国･朝鮮、中国の東アジアグループは相互に類似しており、結婚前の 60%弱から結婚後に 10 ポイント程度労働力比率が下がる。フィリピン、タイの東南アジアグループは極端で、60～80%から 30%まで激減する。結婚や出産を機に専業主婦になる者が多いわけであるが、「女は働かなくていい」という家父長的性格が強い環境にあるがゆえに、仕事をしていない可能性がある。また、離婚する者も増えているが、離婚後に専業主婦から生計を立てられる仕事を見つけるのは容易ではない。このグループの問題は、日本人夫のもとで女性の自立を妨げる環境にある。

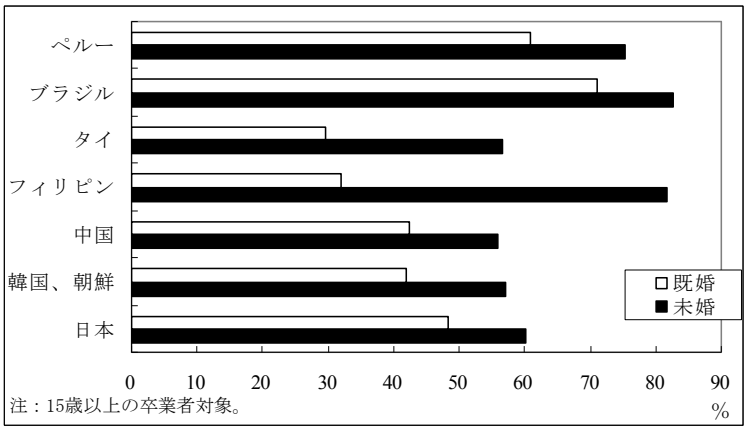


図 1 婚姻状況別 女性の労働力比率

ある意味でそれと対照的なのが、ブラジル、ペルーの南米グループである。70～80%から結婚後に 60～70%へと下がるが、他のグループより労働力比率は高い。これは、働かなければミドルクラスとして最低限の生活を営めない現実の反映にすぎず、女性が自立しているからとはいえない。「日本人以上に」働くことで初めて、南米人は子どもに習い事をさせたり、一定の部屋数があるアパートを借りることができるというわけである。親は子どものために長時間労働するが、それゆえに南米人の子どもは大人からのケアを十分に受けられないことも、図 1 の数値は示唆している。

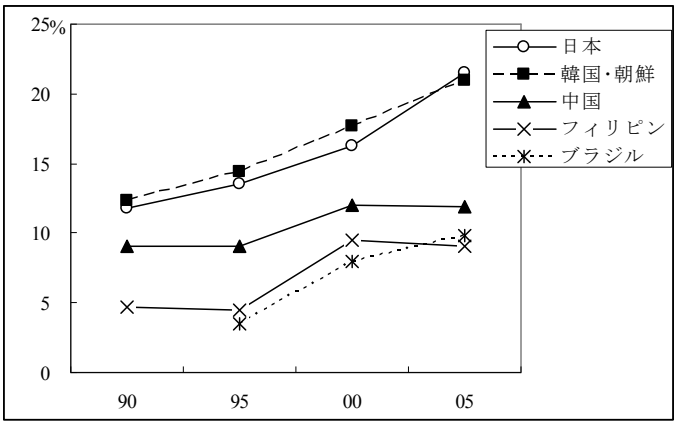


図2 国籍別『引退』者の比率の推移

さらに、現時点でほとんど意識されていないことだが、子ども達はほどなくして「親の老後」に向き合うことになることを、図 2 の数値は示す。日本と韓国･朝鮮はほぼ同じように退職者が増える一方、比率は少ないもののフィリピンやブラジルの退職者も増加傾向にある。外国生まれで日本育ちの 1.5 世や日本生まれの 2 世は、意外に早く親の引退という現実に直面しつつある。これまでは子どもに対する公私のケアの不足が問題とされてきたが、これからの子どもは老親のケアという問題に取り組まねばならない。

ニューカマーの多くは退職金もなく、職場を早々に追われ、年金など社会保障も十分に得られない状況――ほとんど見通しが立たない中で、「引退後」の生活設計を強いられている。出身国に戻るという選択肢もあるが、日本に住むなら子ども達を頼りにせざるをえない。進学率も低いことから所得も日本人より低い子ども達に、老親のケアがのしかかる現実が目と鼻の先に来ているのである。 （おわり）

多文化な子ども あつまれ！ ～地域の子ども支援教室から～ ⑨

『サンプレイス（とよなか国際交流協会）』（豊中市）

公益財団法人とよなか国際交流協会では、外国にルーツをもつ子どもたちを対象に、安心して集える居場所づくりとエンパワメントをすすめる様々な事業を行っています。その中でも、今回は「サンプレイス」という活動をご紹介します。

サンプレイスは、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした居場所づくり、日本語・学習支援の場として 2006 年に始まりました。毎週日曜日（第一日曜除く）の 13 時～15 時まで、大学生ボランティアが中心となって活動を進めています。このサンプレイスという名称は、こどもたちにとって太陽（Sun）みたいに暖かい、学校でも家でもない第 3 の居場所を毎週日曜日（Sunday）につくろうと、ボランティアが考えて名付けたものです。フィリピン、ネパール、中国、ペルー、ブラジル、フランス、タイ…等々、様々なルーツを持つ小学生～高校生までの子どもたちが参加しています。毎回の活動内容は子どもの意思を尊重して決まり、ボランティアと学校の宿題をしたり、子ども同士でおしゃべりをしたり、卓球やビリヤード、ゲームをして遊んだり、各々が自由に時間を過ごします。時々、遠足やバーベキューをするために出かけることもあります。

サンプレイスに来る子どもの中には、学校でありのままの自分を出せず、また、家でも親に自分の気持ちを伝えられず、学校でも家でも居心地の悪さを感じている子どもがたくさんいます。ボランティアたちはそうした子どもたちから漏れ聞こえるつぶやきに耳を傾け、じっくりと話を聴くことを何より大切にしており、その中で築き上げられた信頼関係が、子どもが安心して自分らしく居られる場所の基盤になっています。自分の話を真剣に聞いてくれる他者の存在に、少しずつ自分に自信を取り戻していく子どもたちの姿も見られます。活動中に思い切り遊ぶことで、普段の生活の中で溜まったストレスを発散している子どももいます。また、外国人の少数散在地域の豊中市では、学校の中で自分と同じように外国にルーツを持つ友だちに出会う機会はあまり多くありません。そのため、サンプレイスで外国にルーツを持つ友だちに出会うことで、子どもたちは悩みを抱えているのは自分独りではないと気づき、仲間の輪がうまれていきます。こうしたボランティア、子ども同士の関係性の広がりが、子どもにとってより一層安心のできる空間を創りだしているといえます。

サンプレイスではいつも笑顔が溢れており、居場所としての機能を果たしているのだと実感すると同時に、サンプレイスだけが子どもの居場所になってはならないとも思っています。今後はこれまで以上に学校や地域とつながりながら、社会の中に外国にルーツを持つ子どもの居場所を広げていきたいと考えています。

（とよなか国際交流協会　山根絵美）

連絡先：〔住所〕 〒560-0026 豊中市玉井町 1-1-1-601 「エトレ豊中」6 階

〔電話〕 06-6843-4343 〔FAX〕 06-6843-4375 〔メール〕 atoms@a.zaq.jp

メキシコ便り⑨ 『チアパス』

（おおさかこども多文化センター会員・金野広美）

チアパスはメキシコ・シティーから南へバスで16時間、マヤ古典期後期を代表するパレンケ遺跡があり、ここもやはりオアハカ同様、多くの先住民の村があることで知られています。夜8時、メキシコ・シティー発の夜行バスに乗り、チアパス州のパレンケに着いたのが昼の12時。寝不足でもうろうとした中、宿を探し、荷物を置くとさっそく街に出ました。パレンケは小さな街で、特別に見どころがあるわけではないのですが、遺跡への基点となるため、観光客も多く、結構にぎわっていました。次の日の朝、バスで25分の遺跡に行きました。うっそうとした中を少し歩くと、突然、大きな神殿が目の前に現れ、その美しさに息をのみました。緑深いジャングルの中に、たくさんの神殿や宮殿が立ち並び、天文学や、建築学に秀でていたというマヤ文明の繁栄がしのばれました。この遺跡はほかの古典期マヤ都市にみられるような石碑がなく、かわりに石のパネルや漆喰レリーフに文字や図像が刻まれ建物や階段にはめ込まれているのが特徴です。この碑文には2世紀にわたるパレンケの王家の歴史が刻まれ、唯一「女王」が存在したという記録があるのです。この女王は西暦583年から604年にパレンケを統治した「オルナル女王」と、西暦612年から615年まで内政をつかさどった「サク・クック女王」で、この2人の女王の存在は王朝の父系相続の原則を破っていたという話を聞いたとき、そういえば日本では、ひところ前、女帝を認めるかどうかでもめたことがあったなあと、なんだか懐かしく思い出してしまいました。

次の日はパレンケから南西にバスで5時間のサンクリストバル・デ・ラスカサスに行き、シナカンタンの先住民の村を訪れました。村をぶらぶら歩いていると織物を織っている女性がいました。道具は織機のように大掛かりなものではなく、庭の木に縦糸を束ねた一方をひっかけて揺れる糸をあやつりながら編んでいくのです。よくこんな簡単な道具であんなに美しく、しっかりした布が出来上がるなあと感心しながら見ていると、家の中でトルティージャを作っていた女性ができたてを食べるようにすすめてくれました。直径1メートルほどの大きな鉄のフライパンの上で焼いたものの中にペピータ・デ・カラバサ（かぼちゃの種の粉末）を入れて食べました。できたてのトルティージャは温かく、ふんわりとしてとてもおいしかったです。また、ここチアパスでは小さな子どもがバナナや民芸品を売り歩く姿に頻繁に出会いました。アグア・アスルというとても美しい滝に行った時、マウラとパウチョの姉弟がお母さんが作ったという揚げたバナナを売りにきました。私はバナナを持っていたので、断りましたが、ずっとついてきます。そこで彼女たちと少し話をしました。マウラは6歳でパウチョは4歳、いつも2人で観光客相手にバナナを売り歩き、売れたお金はお母さんに渡すと言っていましたが、そのお母さんは21歳で今おなかに赤ちゃんがいるということでした。ということはマウラを15歳で産んだことになります。ちょっとびっくりしてしまいましたが、先住民の女性は若くからたくさんの子どもを産みます（前回も書きましたが平均8人）。それはマウラたちのように労働力として必要だからです。ここは観光地に近いので電気や水の設備はありますが、少し奥にいくと、まったくそれらのサービスが受けられない村がいまだに多くあります。そんな中で多くの子どもを産み、育てている母親たちの生活の厳しさは想像を絶するものがあります。ここでガイドをしてくれたラウルは、「チアパスの先住民はとても貧しく、不便な生活をいつまでも強いられているが、これは未だに根強く残る差別が原因なのだよ」と静かに語ってくれました。そういえばここでは先住民族の諸権利と文化の認知を求め活動しているサパティスタ民族解放戦線の立て看板があちらこちらに多くみられ、彼らへの住民の支持が高いチアパスが、サパティスタの活動の中心になるのもうなずけます。物があふれ、活気に満ち、毎日お祭りをしているようなメキシコ・シティーだけにいたのでは、決して見えてこないメキシコのもうひとつの現実を、この旅で知ることができました。

編集部より

「OKoTaC 通信」はこれまで外国にルーツを持つこどもたちに関する多くの情報をお伝えしてきました。しかし、会員の皆様から「日本語教材の簡単な紹介をしてほしい」「教育サポーターとして学校に入るうえで知っておくべき日本の学校のしくみや様子が知りたい」など、多くの声が寄せられていました。編集部としてこれに応えるため、こどもを支援する人々に具体的に役立つ情報をシリーズでお送りします。

ころちゃんお役立ち情報（1）　『多言語学校プロジェクト』

「多言語学校プロジェクト」は 2008 年度トヨタ財団アジア隣人ネットワーク助成(2 年間)を受けて、大学の研究者、学校現場の教員、外国人児童生徒支援者、翻訳者などが連携して、日本語を母語としない児童・生徒・保護者をサポートするために作られたインターネットサイトです。学校の先生は多忙な中で多言語への対応も迫られています。また、翻訳や通訳の支援も予算や時間に制約があります。そのような中で、簡単に必要な文書が作れて、できるだけたくさんの時間を児童・生徒・保護者への対応に使ってもらおうというのがこのサイトの目的です。日本語支援のためにインターネットがどのように使えるかを追求した結果、以下のようなツールを開発しました。

多言語・学校プロジェクト

①「教材検索」　全国のホームページ上で無料公開されている「日本語教材」「学習教材」をリストアップし、それぞれが使えるようにリンクを張っています。

②「文書検索」　全国の教育委員会や学校などが公開している多言語による「お知らせ文書」をリストアップし、使用することが出来ます。保護者向けの手紙などを作る参考になります。

③「用語検索」　学校生活に関する言葉、予定表で使う言葉、お知らせの短いフレーズ、就学ガイドの言葉など学校で使う言葉を8言語(英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、ベトナム語、タイ語)に翻訳しました。
文部科学省のJSL中学校教科用語集(社会・理科・数学のみでタイ語を除く7言語で翻訳)
高等学校保健体育・家庭科用語集(PDF版は大阪府教育委員会のHPにあります)
などが使えます。日本語で言葉を入力すると、それぞれの言語で表記されるので、それをワード文書などに貼り付けることができます。

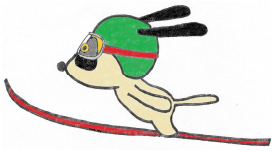
④「予定表作成」　日本語で行事名を入れていくと、必要な言語の月間行事予定表が印刷できる便利なツール。

⑤「多言語筆談」　言語グリッドという技術を使った「PaneLive」「mixcha」という機械翻訳ツールです。コンピュータ―が通訳をしてくれます。

⑥「多言語お知らせ文書」　神奈川県のタイにルーツを持つ子どもの支援団体「ラックパーサータイ」と協力して作った小学校から高等学校までの外国語文書パターン集(8言語)です。日時や学校名などの必要情報を入れるだけで、保護者向けの手紙を作ることができます。

①と②は文部科学省のホームページに設けられた「かすたねっと」というサイトに移管され、運営されています。(多言語学校プロジェクトのページから入ることもできます)

このプロジェクトの中心メンバーとして「おおさかこども多文化センター」のスタッフも参加しています。みなさんどうぞ大いに活用してください。　（T・Y）

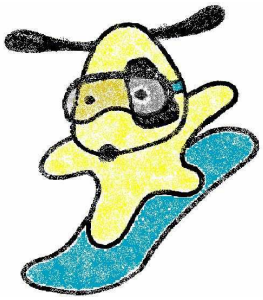


イベント情報

▼「高校生活オリエンテーション」

日　時：2013 年 3 月 30 日（土）13:00～16:00
場　所：大阪府立今宮工科高校
対象者：25 年度大阪府立高校に入学する帰国・渡日生徒および保護者
「学校のルール」「卒業後の進路」「学費」など、日本の高校生活で大切なことをお話しします。
卒業生の体験談も聞くことができます。保護者の方と一緒に参加してください。（通訳付）
問合せ先：大阪府日本語教育支援センター（ピアにほんご）Tel 050-3513-1497
大阪府教育委員会児童生徒支援課 Tel 06-6491-0351（内線 3435）

スタッフ紹介（3）前号に引き続き編集スタッフを紹介します。



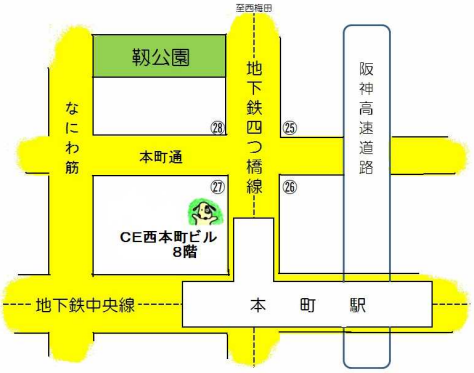
大倉安央

府立高校で“とても”長く教員生活をしています。10 年以上前のことですが、勤務する高校に一人の中国帰国生が入ってきました。それ以来、ずっと渡日生の教育保障に関わってきました。大阪の渡日生教育は全国で最もすすんだ取り組みとして評価されるようになりましたが、それは学校関係者だけの力で実現したわけではありません。地域のボランティアをはじめ、生徒を支援しようと思う多くの人びとに支えられていたことを、私は忘れることはできません。これからも学校の垣根を超えて多くの方々と協力していかなければならないでしょう。そのとき、おおさかこども多文化センターがその真価を発揮すると信じています。

事務所入居ビル名変更のお知らせ

おおさかこども多文化センターが入居しているビルの所有者変更により、ビル名が「高砂堂ビル」から「CE 西本町ビル」に変わります。新しい所有者（私たちにとっては大家さん）は最近、各メディアで注目を浴びているビジネスホテルの会社です。これまで空室であった階もほとんどその会社関連の事務所になり、人の出入りが多く活気が出てきました。ただし、私たちの階はこれまで通りの入居者なので、静かで落ち着いています。近くに来られたときは是非、お寄りください。（Y・H）

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表　村上 自子
〒550－0005 大阪市西区西本町 1-7-7
CE 西本町ビル 8 階
Tel / Fax　06-6586-9477
E-mail　osakakodomo@gmail.com
URL　http://okotac.org

郵便振替　【記号・番号】00940－1－272824
（他金融機関からは【店名】〇九九（ｾﾞﾛｷｭｳｷｭｳ）
【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824）
口座名義『ＮＰＯ法人 おおさかこども多文化センター』
〔ﾌﾘｶﾞﾅ：トクヒ）オオサカコドモタブンカセンター〕